

「JAIA カーボンニュートラル促進イベント in 東京」開会式典

JAIA 理事長スピーチ原稿

NOTE：冒頭、司会者より式典にご参加頂いている来賓の方々を丁寧にご紹介するため、理事長スピーチは、より切り込んだ内容にさせて頂いております

皆様こんにちは。日本自動車輸入組合 理事長の上野金太郎でございます。

< 関係者への謝意 >

本日はご多忙のところ、「JAIA カーボンニュートラル促進イベント in 東京」の開会式典にご出席頂き、誠に有難うございます。

また、先ほど司会者よりご紹介しましたが、本イベントにご後援を頂きました各省庁・団体の皆様におかれましては誠に有難うございます。

併せて、本イベントの開催にあたり、ご協力を賜りました大丸有エリアマネジメント協会の皆様、丸の内警察署様にも感謝を申し上げます。

< イベント開催の経緯・コンセプト >

さて、JAIA では輸入電動車の普及促進を図るべく、2021年に東京で実施したイベントを皮切りに、電動車の認知向上を目的としたイベントを毎年実施しており、2022年は大阪で、2023年は神戸で実施いたしました。

そして今年も、日本の中心でもある、ここ丸の内エリアで、皇居と日本の表玄関である東京駅を結ぶ象徴的空間である行幸通りをメイン会場とし、丸の内仲通りに面した丸ビル屋外スペース、KITTE テラスの屋外スペース、東京ビル TOKIA ガレリアといった複数会場を利用し、このエリアを一つの大きな「面」として捉え、世界に情報発信すべく実施致します。

本イベントは昨年の神戸に引き続き、政府関係者やメディアの皆様だけでなく、幅広くユーザーの皆様に、JAIA 会員の最新の輸入電動車の魅力に触れていただけるよう、オープンな形でイベントを実施いたします。

< イベントの特徴 >

展示内容としては、世界 5 大モーターショーの 1 つであり、JAIA が共催するジャパンモビリティショー2023 に参加した車両、本年開催されたフォーミュラ E で競ったレーシングカーのプロトタイプ車両、行幸通りをゴールとする東京マラソンの先導車両、マルチパスウェイの一環として最新の燃料電池車をはじめ、四輪だけでなく電動二輪車など、世界最先端の電動車を取り揃えて、JAIA 会員 12 社より出展車両と試乗プログラム車両の合計 46 台、JAIA 電動車イベントでは過去最多の幅広いラインナップをご覧いただけます。

また、今回は JAIA だけでなく日刊自動車新聞社にも共催者になって頂き、日本自動車会議所様、日本自動車工業会様、日本自動車販売協会連合会様の各自動車団体をはじめ、日本貿易会様、2025 年日本国際博覧会協会様にもご後援を頂き、JAIA だけでは解決できない電動車

の様々な課題解決を意識した内容として開催致します。改めて皆様に御礼申し上げます。

なお、本イベントは本日と明日の2日間、10時から夜の19時まで開催致します。従来のJAIAイベントは17時までとしておりましたが、今回は丸の内エリアの方々をはじめより多くの方に、お仕事帰りにもお立ち寄り頂けるよう、工夫をして開催致します。

<トークイベント>

さらに、今回はJAIAとして初めてトークイベントも行います。内容は、「電動車市場の現状・課題と今後の動向」、「充電インフラの環境整備」、「クルマ・社会・パートナーシップ大賞と地方連携」、そして最後に「自動車整備人材の課題と取組」という、皆様にとって非常にご関心の高い4つのテーマで実施致します。

私も最初の電動車市場のセッションに参加し、JAIAで実施した電動車に関するユーザー調査の結果なども踏まえてお話する予定ですが、この調査は、補助金や航続距離、充電インフラなど多岐にわたります。例えば航続距離については、「実用的にはほとんど問題ないレベル」との声もあるなど、興味深い結果をご紹介します予定です。バラエティに富んだ方々と日本の電動車市場の現状・課題について議論し、マルチパスウェイを意識して電動車市場の今後の動向を探ります。

なお、トークイベントは YouTube でも配信致しますので、ぜひ皆様もご覧頂ければ幸いです。

< 試乗プログラム >

また、明日土曜日のプログラムになりますが、従来 JAIA の電動車イベントでは実施していなかった、試乗プログラムも実施致します。JAIA が実施したユーザー調査では、電動車はクルマとしての性能の満足度が高いという結果が得られました。電動車の購入理由として、「電動車なのに性能が良かったから」ではなく、「気に入ったクルマが電動車だった」ということだと考えております。そこで今回は、一般の方々を主な対象に自動車評論家による運転のもと、輸入電動車の魅力をたっぷり解説頂きながら、電動車の優れた性能を体感頂ける試乗プログラムもご用意しましたので、是非ご注目下さい。

< その他展示ブースの紹介 >

その他にも本イベントにご後援頂いている 2025 年日本国際博覧会協会による大阪・関西万博ブースや、東京ビル TOKIA ガレリアでは、電動商用車に関わる展示の他、充電インフラやバッテリーリサイクル事業者、自動車整備人材関連、その他電動化に関わる事業者の皆様にご出展いただいています。車両だけでなく、バラエティに富んだ展示ブースも是非ご覧ください。

<マーケット>

さて、続いて輸入電動車市場の動向についてご紹介いたします。このあたりは後ほどのトークセッションでもご説明致しますが、JAIA 会員各社の輸入 EV のラインナップは 2020 年 10 月時点では 10 ブランド 20 モデルだったものが、2024 年 9 月末時点には商用車も含め 19 ブランド・151 モデルにまで拡大しています。大型から小型まで、SUV やラグジュアリーモデル、スポーツタイプなど、多種多様なモデルにまで広がりを見せ、ユーザーの選択肢も広がってきています。

その結果、輸入 EV の販売は堅調に推移し、特に 2024 年上半期の輸入 EV の登録台数は前年比 16.7% 増の 10,785 台と上半期で初めて 1 万台を超え、2020 年上半期以降 5 年連続で上半期過去最高の台数を更新致しました。また、外国メーカー車に占める EV のシェアも 9.5% と着実に増加致しました。なお、直近、2024 年 10 月の EV シェアは 12% となり、1 割以上を EV が占める結果となっています。

これは JAIA 会員各社がお客様のニーズに合わせてラインナップを拡充したことに加えて、JAIA からの要望にも応えてくださった政府による、電動車購入や充電インフラ整備への補助金の切れ目ない継続的な実施のおかげでもあります。東京都様におかれましても、電動車への購入補助や充電インフラ設置にかかる補助をいただいています。

また、東京都では電動車に対する補助金だけでなく、集合住宅等への充電設備普及促進事業や、公道での充電器設置も開始されるなど、今後こ

のような充電環境の基盤整備が、全国においても進んでいくことを期待しております。

経済産業省をはじめとする各省庁の皆様、東京都、千代田区の皆様には改めて厚く御礼申し上げます、また、今後も引き続きのご支援を頂ければ幸いです。

< 充電インフラの課題 >

また、先ほども申し上げましたが、本イベントは輸入電動車の認知向上だけでなく、充電インフラやリサイクルなど、電動化に関する課題も意識したイベントとしており、充電インフラ事業者など 17 社の展示ブースや先ほど申し上げました「充電インフラの環境整備」をテーマとしたトークセッションも実施致します。

充電インフラについては、日本では特に、都心部における集合住宅での充電インフラの不足や、充電性能の改善、高速道路での充電のための無料一時退出など、電動車の更なる普及を実現するためには、課題も残されています。

後ほど経済産業省様からもご紹介があると思いますが、JAIA も検討会の委員として加えていただき、昨年 10 月には「充電インフラ整備促進に向けた指針」がまとめられました。こうした官民連携の取組みの結果、指針に基づき充電インフラがますます整備されていくものと期待しております。

< 整備人材の課題 >

また、喫緊の課題ととらえているのが、自動車整備の人材不足です。電動車の普及に伴う新しい技術に対応できるような自動車整備の人材育成も欠かせません。本イベントでは、「自動車整備人材の課題と取り組み」というトークセッションを行い、パネリストのみなさまと自動車整備人材の採用と定着に向けヒントを探っていこうと考えています。

< 結び >

最後になりますが、今回お集まり頂いた皆様に改めて御礼申し上げます。

JAIA は、ご後援頂いた政府、自治体、関係機関、各自動車関係団体の皆様並びに各出展者様と共に本イベントなどを通じて日本の電動車市場を活性化することに努めて参ります。

また、JAIA 会員各社は、ユーザーの方々の選択肢を広げるため、多様なラインナップを展開して参ります。是非とも皆様におかれましては、本イベントで輸入電動車のラインナップ・魅力・価値を存分に体感いただき、日本のお客様に広く発信下さいますようお願い申し上げます。

これからも JAIA 及び JAIA 会員インポーターへのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、私からのご挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

以上

11月15日 日本自動車輸入組合（JAIA）
JAIA カーボンニュートラル促進イベント 開会式典挨拶

1. はじめに

- みなさま、おはようございます。経済産業省自動車課長の伊藤でございます。本日は「JAIA カーボンニュートラル促進イベント in 東京」がこのように盛大に開催されたことにまずもってお祝いを申しあげたいと思います。本日はこのような場にお招きいただきまして、誠にありがとうございます。

2. 今回のイベントについて

- 広く一般の方々に輸入電動車の魅力をお伝えすることを目的とした本イベントは、国内外への情報発信にふさわしい場、昨年の神戸に続き、今年は東京・丸の内という場所で、ユーザーに対して、輸入車の魅力だけでなく、カーボンニュートラルのに向けた実現に向けた取組の重要性を訴求する観点でも、大変意義が大きいものと考えております。

3. JAIA の取組について

- JAIA の皆様の御尽力もあり、電動車や SDV といった多種多様な魅力ある自動車我が国の自動車市場に彩りをもたらしています。消費者の選択肢が増えれば、ひいては

日本の自動車市場全体が活性化していくものと考えております。

- 引き続き、日本の消費者に「車を選ぶ楽しさ」を提供いただき、我が国自動車産業の発展に貢献いただくことを期待しております。

4. 政府の取組について

- 自動車をめぐるGX、そしてDXの変化のスピードは更に加速度を増しています。
- GXについていえば、経済産業省は、EV、合成燃料、あるいは水素といった「多様な選択肢」を追求する、マルチパスウェイ戦略を基本的な方針としております。
- 特に電動化については、電動車の普及とインフラ整備をまさに車の両輪として推進しております。電動車の購入支援を進めるとともに、充電インフラに関しても、2030年までに30万口という設置目標を定め、整備支援を進めております。
- また、DX分野においては、本年5月に政府として「モビリティDX戦略」を策定し、SDVをはじめ、自動車のDX分野での国際競争を勝ち抜くべく、取組を進めております。先月のジャパン・モビリティショーでは、ソフトウェア

人材や異業種間の連携の基盤となる「モビリティ DX プラットフォーム」を立ち上げたところです。

- GX・DXの実現に向け、本日のイベントも契機として、皆様との更なる連携・協力を図りながら、取組を加速させていきたいと考えております。

5. おわりに

- 最後になりますが、2日間のイベントが盛大に行われますこと、また御参加されている皆様の御発展・御健勝を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

令和6年11月15日(金)

JAAI カーボンニュートラル促進イベント in 東京

国交省物流・自動車局次長 来賓挨拶

<冒頭>

本日は、「日本自動車輸入組合 カーボンニュートラル促進イベント in 東京」が無事に開催されますこと、お慶び申し上げます。

まず、上野理事長をはじめ、日本自動車輸入組合の会員の皆様には、平素より国土交通行政に多大なるご理解とご協力をいただいております、この場を借りて御礼申し上げます。

<カーボンニュートラル関係>

我が国においては、2030 年度に温室効果ガスを 46%削減するとともに、2050 年にカーボンニュートラルを実現することを目標として掲げています。そのためには、我が国のCO2排出量の約2割を占めている運輸部門、とりわけ、その大部分を占めている自動車分野の低炭素化・脱炭素化を促進することが不可欠です。

我が国における電気自動車の販売台数は、今年度上半期(4月～9月)において約2.8万台(昨年同期比約3割減)でしたが、このうち海外メーカーは約1.1万台と、全体の約4割を占めています。

今回開催されるイベントでは、各海外メーカーから多くの電気自動車が集うものと承知しており、参加者において、電気自動車に対する認知・関心の向上が期待されます。

国土交通省としましては、貴組合をはじめとする関係業界のご意見、ご要望を伺いながら、関係省庁と連携し、エコカー減税等の

税制インセンティブに加え、商用電動車や充電設備等の導入への支援など、カーボンニュートラルの実現に向けた各種施策に引き続き取り組んでまいります。

<自動車整備士関係>

また、自動車ユーザーが電気自動車を安全・安心に使っていただくためには、電気自動車に専門知識を有する自動車整備士の確保が必要です。

我が国における自動車整備士の人材不足は、依然として深刻な状況であることから、最新技術が搭載された電気自動車を通して若者に整備士の魅力を伝えるとともに、「働きたい」と思えるような職場環境を整備していくことが求められます。

このため、国土交通省では、昨年度より「自動車整備士の仕事体験事業」を実施し、高校生などの若者を対象とした取組を行っています。

また、国土交通省は、本年3月、事業者が取り組むべき内容をまとめた「自動車整備士の働きやすい職場ガイドライン」を策定し、自動車整備士にとって働きやすい・働きがいのある職場づくりを推進しています。

今後、貴組合のお力添えもいただきながら、ガイドラインの周知啓発や好事例の展開等により、自動車整備士の確保とともに、電気自動車の更なる普及に繋げてまいりたいと考えています。

<むすび>

最後になりますが、日本自動車輸入組合の皆様にご敬意を表するとともに、今日のイベントのご成功を祈念いたしまして、私からの御挨拶とさせていただきます。

JAIA カーボンニュートラル促進イベント in 東京 東京都挨拶 令和6年 11 月 15 日(金) 明治安田ホール

東京都産業労働局産業・エネルギー政策部長の米澤でございます。本日は、産業労働局長の田中が所用にて出席がかないませんので、預かりました祝辞を代読させていただきます。

このたびは、「JAIAカーボンニュートラル促進イベント in 東京」が盛大に開催されますこと、心からお祝い申し上げます。

この夏は、経験がないような豪雨や、命を脅かすほどの猛暑が続き、気候危機という人類共通の課題の解決は待ったなしの状況です。

東京都では2050年までの「ゼロエミッション東京」実現を掲げ、2030年に、都内で新車販売される乗用車を全てEVを始めとした環境に配慮した車両にすべく、取組を加速しています。

ゼロエミッションビークル(ZEV)の購入に対して補助を行っているほか、ZEVの普及に欠かせない充電インフラについても、充電器の設置に対する補助を行っております。

また、公道への急速充電器の設置も進めており、今年度は、この会場近くの東京駅丸の内南口付近に150kWの超急速充電器を2基設置いたしました。

さらに、ZEVの普及に弾みをつけるため、今年3月には世界最高峰の電気自動車レース「フォーミュラE」を東京で初めて開催しました。

本日のイベントは、カーボンニュートラル社会に向けた電動車市場の活性化につながるものであり、都が進めるゼロエミッション東京の実現に向けても大きな後押しとなるものと考えております。都といたしましても、日本自動車輸入組合ほかイベントに参加されている多くの皆様と連携し、引き続きZEVの普及を進めてまいります。

最後に、本日のイベントの成功と、ご参加されている皆様の益々のご発展を祈念いたします。本日は誠にありがとうございます。